



その月ならではのテーマを特集。全てやよい図書館で借りられます。

館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

フレーズ
&
センテンス

「それは、荒地の真ん中にあるエメラルド・グリーン宝石だった。」

「あなたは幸せ？ でないならパーカー・パイン氏に相談を」という新聞広告を見てやってくる、様々な問題を抱えた依頼者たち。パイン氏は奇想天外な手法で彼らの問題を解決していきます。この小説の中には度々高価な宝石が登場するのですが、私はそれらの宝石よりも、パイン氏が旅行中、飛行機の上から眺めた景色を宝石に例えた一文が印象に残りました。どの宝石よりも美しく感じたのです。この後、パイン氏が展開する統計を駆使した推理もまた秀逸です。

『パーカー・パイン登場』アガサ・クリスティー／著 早川書房

(青山)

「誰か×誰か」「誰か×何か」の組み合わせが面白い！

仕事×ランチ 『サラメシ』学研パブリッシング／編 Gakken

みなさん、今日のランチは何を食べましたか？ この本は、NHKの番組でもおなじみの「サラメシ」を書籍化したものです。「仕事の数だけ、昼がある。」とあるように、様々な職種の人達のランチが仕事とともに紹介されています。消防署員、はやぶさの研究者、新幹線清掃スタッフ、タクシードライバーなど。みなさんが食べているのは愛妻弁当から栄養満点の社食や行きつけのお店のランチまで様々です。厳しい仕事の間に、束の間の休息。ほっと一息ついたみなさんの笑顔とおいしそうなおランチが魅力的な1冊です。(坂井)

かける
×本精読



原作本から入ってよし、映画から入ってもよし。



第20回 チームバチスタの栄光

★原作「チームバチスタの栄光」著者：海堂尊

★映画「チームバチスタの栄光」監督：中村義洋

バチスタ手術と呼ばれる難しい手術を何度も成功させてきた東城医大の「チームバチスタ」。しかし、この手術中に患者が死亡する事件が立て続けにおこる。病院長よりこの事件を調査するよう、不定愁訴外来の勤務医田口に命が下り、そんな中、厚生労働省の役人白鳥がやってくる。

今回紹介するのは、竹内結子が田口役を演じた映画版「チームバチスタの栄光」です。怪しい容疑者たちに、どんでん返しのように最後に明かされる意外な犯人。医療ミステリーなので、小説だけでは医療関連の言葉が出てきてもあやふやな想像しかできなかった場面も、映画では実写なのでとてもわかりやすいです。また、ふてぶてしい白鳥役を阿部寛が演じていて、田口との掛け合いが面白く、つつい笑いが出てしまいます。

続きには竹内結子、阿部寛の「ジェネラルレージュの凱旋」と、伊藤敦と仲村トオルのドラマ版を映画化した「ケルベロスの肖像」があります。こちらもぜひご覧ください。

今回は「チャーリーとチョコレート工場」です。お楽しみに！ (大塚)

11月「おそろい」

1が4つ並んだ様子から、「おそろいの日」と制定された11月11日。それに伴い、読書の窓でも「おそろい」にまつわるステキな本をご紹介します！

『ぐりとぐらのうたうた12つき』

なかがわりえこ／文 福音館書店

お揃いの帽子とオーバーオール姿が有名な、双子のねずみ「ぐりとぐら」。2匹が過ごす1年間の様子が描かれている本作では、沢山の可愛らしい「双子ルック」を見る事が出来ます。

セーターや浮き輪、傘やリュックまで「お揃い」な2匹。その可愛らしさに、思わず心がほっこりと暖かくなります。(新井)

『夫婦茶碗』

町田康／著 新潮社

夫婦とは不思議な物である。金はなく、職もなく(あっても続かない)、アホなことばかり考えている、どうしようもないこの男にも、妻がおり、子どもができる。それでもこの男、一向にマトモになる気配がない。最後には、夫婦茶碗に茶柱を立てようとやっきになる始末。それでもつつい読み進めてしまうのはなぜなのか…。この不思議な魅力をご堪能あれ！ (丸山)

『ロシアのマトリョーシカ』

スヴェトラナ・ゴロジャーニナ／著
スペースシャワーブックス

マトリョーシカと言えば、女の子の人形が入れ子になっているロシアの民芸品、くらの知識しかありませんでした。が、こんなにいろいろな種類があったなんて！ 服の部分が物語になっているものや、動物の形をしたものなどなど、可愛らしくて奥深い、マトリョーシカの世界をたっぷり楽しめる1冊です。(丸山)

・『あいうえおカメレオン』

増田辰樹／偕成社

・『まねしんぼう』

宮西達也／岩崎書店

12月「福の本」

12月29日は「ふくの日」。一年の終わり、正月前に大掃除や買い物をして正月に備えようという日です。ということで、年末に読みたい、福を呼ぶ本を集めました。

『にほんのかわいいおまもり』

にほん授与品研究会／編集 白夜書房

神社でつつい買ってしまうお守り。この本では、日本全国のユニークでかわいいお守りが紹介されています。様々な形のお守りは写真を見ているだけでも楽しいのですが、その効き目には「大物を釣り上げるためのルアー守」、「陶芸上達の札」「雷除け」「酒難除け」などなど、面白いものがいっぱい！ 実際に神社に行きたくなる1冊です。(竹原)

『招き猫百科』

日本招猫倶楽部／編 インプレス

皆さんのお宅に、招き猫はいますか？ 招き猫は日本人にとって最も身近な縁起物の一つではないでしょうか。しかし、いったいつからあるのか、色や形にどんな意味があるのか…意外に知らないことがたくさんあるのでは？ そんな招き猫の「なぜ」に答えてくれるのが本書です。この本を開いてみれば、意外な福が招かれるかも！？ (丸山)

『ショーペンハウアー 自分を救う幸福論』

アルトゥル・ショーペンハウアー／著
鈴木憲也／訳 かんき出版

多くの思想家や芸術家に影響を与えた哲学者、ショーペンハウアーの思想が、203の名言から記されています。決して耳に優しい言葉ばかりではありませんが、どのような心構えを持って生きるべきか、改めて考えさせられます。「幸福」を自身の力で引き寄せるための、生きる知恵が詰まっています。(本田)

・『イラストでわかるおうち歳時記』

三浦康子／監修 朝日新聞出版

・『東京ありがた七福神めぐり』

グループ漫歩／編集 日本出版社